



発行：一般社団法人徳洲会
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-3-1 東京堂千代田ビル14階
TEL:03-3262-3133
制作：一般社団法人徳洲会 広報部
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-3-1 東京堂千代田ビル14階
TEL:03-3288-5580 FAX:03-3263-8125
Email:news@tokushukai.jp

ALL LIVING
BEINGS ARE CREATED EQUAL

徳洲新聞

TOKUSHUKAI MEDICAL GROUP NEWS



「第1回生として後輩に誇れる大学と一緒に」と荒賀室長

湘南鎌倉医療大学(仮称)は3月24日、湘南藤沢徳洲会病院(神奈川県)で第1回大学説明会を開催した。同大は2020年4月に開学予定で、開学時に4年制の看護学部看護学科(仮称)を開設予定。説明会は午前と午後を実施し、学生や保護者など計194人が参加した。

湘南鎌倉医療大学(仮称) 第1回大学説明会が盛況

最初に同大設置準備室の中村伊予子・事務次長が、取得できる資格など同大の概要を紹介。続いて学長に就任予定の荒賀直子室長が「教育について」をテーマに説明した。養成する人材像では、①幅広い教養と倫理観を身に付けている、②多様な場面でコミュニケーションができる能力をもっている——など列挙。

さらに特色ある授業として、同大の立地や徳洲会グループのスケールメリットを生かし、「鎌倉の文化と歴史」、「島嶼看護」、「災害看護」などを挙げ、参加者の興味を誘った。最後に荒賀室長は「第1回生として、後輩に誇れるような大学と一緒に作りましょう」と期待を込めた。次に湘南藤沢病院の阿部麗香看護師と阿萬由香・看護師長が登場し、看護師として働く楽しさや責任、キャリアアップなどをテーマに話しを展開した。



午前・午後合わせ200人ほどが盛り高い関心

休憩をはさみ、大谷真千子室長がバイタルサインをテーマに模擬授業を実施した。参加者は2人1組になり実際に脈拍測定を体験。「看護師として働く」と、毎日いろいろな経験をします。そのなかでやりたいことを見つけ、自分自身を發展させてください」とメッセージを送った。

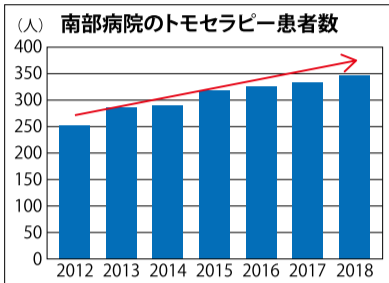
参加者からは「カリキュラムに徳洲会ならではの教育が組み込まれていて魅力的でした」、「徳洲会グループの強力なバックアップがあるというのが人気の高さを後押ししているのではないか」など、関心の高さを示していた。第2回大学説明会は6月に湘南鎌倉総合病院(神奈川県)で開催予定。

湘南鎌倉医療大学(仮称)は3月24日、湘南藤沢徳洲会病院(神奈川県)で第1回大学説明会を開催した。同大は2020年4月に開学予定で、開学時に4年制の看護学部看護学科(仮称)を開設予定。説明会は午前と午後を実施し、学生や保護者など計194人が参加した。

南部病院

放射線治療件数が伸長

トモセラピー順調に稼働



手術、化学治療(抗がん剤)、放射線治療は、がんの三大治療と言われ、このうち放射線治療は放射線を照射し、がん細胞のDNA(デオキシリボ核酸)にダメージを与え、がん細胞を死滅または縮小させる。放射線治療の目的は①根治、②補助、③緩和——に分かれる。「補助」のひとつとして

患者体験価値の向上にも力

南部徳洲会病院(沖縄県)は2012年に放射線治療科を設置し、県内で初めて高精度放射線治療装置「トモセラピー」を導入、順調に治療件数を伸ばしている。同装置はIMRT(強度変調放射線治療)という技術により、腫瘍に放射線を集中する一方、正常な組織への照射量を減らせるのが特徴で、高い治療効果が期待できる。同院は丁寧な対応により、患者体験価値を高めると同時に、院内他科や地域の医療機関との連携も強化し、放射線治療の充実を図っている。



多職種で患者さんをサポートする放射線治療科

術前照射がある。たとえば、進行した直腸がんは手術をしても人工肛門の造設を余儀なくされるケースがあるが、放射線治療により、がんを小さくしてから手術すれば、回避することも可能だ。「緩和」は痛みなどのつらい症状をやわらげる治療。とくに骨転移や脳の転移に対し効果がある。

最近では技術の進歩により、「根治」を目的に放射線治療を行うケースも増えている。その代表として挙がる装置がトモセラピーだ。同装置の得意とするIMRTは、CT(コンピュータ断層撮影)と放射線装置を一体化し、複雑な動きや計算をコンピュータで制御。腫瘍の形状や強度を変化させ、360度の全方向からミリ単位の高い精度で照射することが可能。

同院では、主に前立腺がんに対しトモセラピーを用い、5年生存率(再発含む)は90%以上。基本的に外来通院で対応可能、1回の治療時間は10〜20分、照射回数は最大で39回程度(約2カ月間)。副作用として頻尿や尿勢



眞鍋医師(左)、橋本医師ともに放射線治療専門医

放射線治療を実施する際に気を付けているのは、患者さんに納得してもらうことだ。患者さんは放射線治療に対し、髪の毛が抜ける、放射線のせいでの別のがんになるなど誤解

低下などあるが、前立腺周囲の神経を傷つけないため尿失禁や勃起不全などは起こりにくい。放射線治療科の眞鍋良彦医師は「当院にトモセラピー、中部徳洲会病院(沖縄県)にダヴィンチ(内視鏡下手術支援ロボット)があり、同じグループ病院で放射線治療にも手術にも対応できることが強みだと思います」と強調する。

治療計画に基づき診療放射線技師が機器を操作する

治療計画に基づき診療放射線技師が機器を操作する

さらには眞鍋医師は「腫瘍に、よりピンポイントに放射線を照射できるサイバーナイフを導入できれば、前立腺がんなら5回の照射で治療が終わります」と展望している。

同科には専従の医師2人に加え、がん放射線療法看護認定看護師、医学物理士や放射線治療品質管理士の資格をもつ診療放射線技師、メディカルクラークなどが在籍。それぞれの立場で、患者さんに対し、長期にわたる放射線治療を完遂するためのサポートを行う。

同院で放射線治療件数が伸びている大きな要因に、他診療科との連携がある。同科には病棟はないが、たとえば疼痛などのために緩和照射が必要なお客さんは、緩和ケア部の嶺井悟部長が照射期間中の入院を引き受けている。放射線治療科の橋本成司医師は「薬物による疼痛コントロールはも

していることも多い。こうした「なんとなく怖い」イメージを払拭するためにもあります。緩和ケア部との連携は患者さんやご家族にとっても有益だと思います」と説明する。

他院から化学放射線療法(放射線治療期間中に化学療法を同時に施行)の依頼があった場合も、スムーズに他科連携を行っている。事前に紹介患者さんと医師との間を仲介する地域医療連携室の力も大きい。こうした協力体制があるからこそ、紹介を断らない放射線治療が実現でき、地域での信頼関係につながる。

60%のところ日本では約30%、沖縄県内ではさらに低い数値になる。そこで、県内で放射線治療を行う9病院が定期的に集まり、情報交換や啓発活動に注力。南部病院も隣の医療施設への説明、講演などに努めている。

4月入職の初期研修医149人と過去最高に! 徳洲会グループ

徳洲会グループ病院に4月に入職した初期臨床研修医は149人と、過去最高を記録した。「100人を切った年もあったので、そこから比べると1.5倍も増えたことになり、とても嬉しく思います」と、徳洲会グループ研修委員会委員長の田村幸大・大隅鹿屋病院(鹿児島県)副院長。徳洲会は2004年度に施行された新医師臨床研修制度以前から、各診療科を回るスーパーローテーション研修を実施。離島・へき地研修では診療科をまたがり救急診療、入院診療の急性期から、外来診療、訪問診療の慢性期まで幅広く行うため、総合的な診療能力を身に付けることができる。

田村副院長は「主体的に患者さんにかかわり治療方針を決めるので、考える力が養われます」とメリットを説明。さらに「初期研修を終え大学に戻る先生もいますが、クチコミが後輩に伝わり徳洲会に興味をもつ先生もいます」と分析する。同時に「グループの研修医が一堂に会する勉強会があるのも徳洲会ならではの強み。また、新専門医制度ではグループ病院全体で、さまざまな診療科に対応しているため、初期研修修了後のキャリアパスも示すことができます」とアピールしている。